

しょうだく みち 承諾への道

ふきょうしゅうどうじょかい
マリア布教修道女会 シスター ルイザ・ゴリ

しょうだく いみ じしよ ひ
「承諾」の意味について辞書を引いてみたら、
あいて いらい ようきゆう りようかい う い
「相手の依頼・要求などを了解して、受け入れること。
あいて もう で たの き い ひ う
相手の申し出や頼みを聞き入れること。引き受けること。」とありました。

せんねん まえ できごと さい おも ひとり しょうじょ あいて もう で き い
2千年の前の出来事。ただ15歳と思われる一人の少女が、相手の申し出を聞き入れ、
せきにん ひ う しょうだく しょうじょ な
責任をもって引き受け、承諾しました。この少女の名はマリアといいました。
かのじょ しょうだく たつ
彼女が、なぜ承諾に達することができたのでしょうか。
それが分かるために、まず「相手」というキーワードに注目しましょう。
ふくいんしよ いっしやう てんし あらわ すく ぬし はは
ルカによる福音書(一章)によれば、マリアに天使が現れ、メシア(救い主)の母となることを
つ 告げると、マリアはそれがどのようになるかを確かめた上で、謙虚に、躊躇することなく承諾します。
あいて かみ かみ あいて まった しんらい ことば う い
「相手」は神です。神が相手であるのだとすれば、全き信頼をもってその言葉を受け入れることが
できたのです。

すこ ちゆうもく
もう少し「マリア」に注目しましょう。
じん しんこう そだ かみ じん たみ どれいじょうたい
マリアは、イスラエル人の信仰に育ち、神がイスラエル人の民をいつくしみ、エジプトの奴隷状態
かいほう なが れきし のなか いくど となくご自分の愛のわざを示し、預言者たちなどを通して
やくそく し かみ せんざい かみ あい しょうこ しん
メシアを約束されたことを知っていました。マリアは、神の存在と神の愛の証拠があつてこそ信じて
いました。そして最も注目すべきなのは、マリアは生まれたときから「恵に満ちた方」でした。
しゅ はは めぐ
主イエスの母にふさわしい、ユニークな恵みでした。

がつ ふくいんせんきやう つき かみ あい つ みちび ほし
10月は福音宣教の月です。神の愛を告げるために、マリアはわたしたちを導く星です。
えいえん いのち むか しんらい けんきよ あゆ つづ
マリアとともに、永遠の命に迎えられるときまで、信頼をもって謙虚に歩み続けましょう。